

## 第1回飯田市社会福祉審議会 高齢者福祉分科会 議事録（概要）

■ 開催日時 令和5年7月3日（月） 14時00分～16時19分

■ 開催場所 飯田市勤労者福祉センター3階 第3研修室

■ 出席委員 18名

氏名	出欠	氏名	出欠
何原 真弓	○	塚平 俊久	○
小林 弘	○	遠山 清美	○
酒井 満由美	○	平島 まゆみ	○
幸森 信良	○	前島 道広	×
篠田 守	○	松村 和代	○
高島 孝子	○	松村 秀樹	○
滝上 靖	○	矢澤 秀宣	○
多田 雅幸	○	山田 達朗	○
田中 光子	○	吉沢 貞二	○
棚田 淳史	○		

■ 出席事務局 8名

氏名	部・課・係名	備考
林 みどり	健康福祉部長	
乾 徳彦	長寿支援課長	
宮下 克弘	長寿支援課長補佐兼長寿支援係長	
下島 剛	長寿支援課長補佐兼介護保険係長	
小椋 直美	長寿支援課 基幹包括支援センター係長	
原田 聡昭	長寿支援課 機能回復担当専門技査	
山岸 章広	長寿支援課 介護認定支援係長	
久保田 美貴子	長寿支援課 介護保険係	

## 1 開会

## 2 会長挨拶

今年度は、来期に向けて第9期の介護保険事業計画の策定ということで、皆様にはこれから毎月1回くらいの割合でお集まりいただき、協議をしていただくような状況になります。お忙しい中をこうやって集まっていたただけることに大変感謝しております。また、次の計画に向かって皆さんでより良い話をしていきたいと思っておりますので、忌憚のない意見を言っていただき前へ進めていただければと思います。

## 3 健康福祉部長挨拶

本年度より健康福祉部長を拝命しました林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、公私ともにそれぞれお忙しい中、本年度第1回の社会福祉審議会の高齢者福祉分科会にご出席いただきましてありがとうございます。

本年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行をしたわけですがけれども、その脅威や介護保険サービス等に与える影響は引き続き非常に大きなものと認識をしております。特に医療ですとか介護、そういった事業所では感染対策に大変ご苦労されている中、サービスの提供体制を維持していただいていることが市民の安全安心な生活につながっているものと認識をしております。

市といたしましても、できるだけ支援をさせていただきたいと考えておるわけでございまして、介護保険事業者、あるいは福祉事業者の皆様に対しまして、昨年度に引き続き、感染対策に対する費用への補助ですとか、物価高騰による支出の増加に対する補助の実施をいたします。また、あわせまして、県に対して感染管理看護師、ICNというふうに言いますけれど、ICNの派遣につきまして5類移行後においても継続するよう働きかけを行いまして、現在県から引き続き支援を受けられることとなっております。

分科会の委員の皆様におかれましては、これまで、また今後の対応におきしても、各分野にてご尽力いただいておりますこと、感謝申し上げます。

現状といたしましては、実際にクラスターが発生しているところもございまして、また管内で大勢の若年層の陽性者が出たというような情報もございまして、気が抜けない状況であるということだと思っております。委員の皆様はじめ、医療・介護の各方面の皆様におかれましては、引き続き感染対策にご留意いただきますようお願い申し上げます。

さて、この当分科会でございましてけれども、高齢者向けの福祉、介護保険事業に関する事項をご審議いただく目的で開催をいただいておりますところでございます。

先ほど会長もおっしゃってくださったわけですが、本年度は現行の第8期介護保険事業計画期間の最終年度でありまして、最終年度ということは次期計画の策定年度ということになります。ですので、例年より回数を多く開催をさせていただき中、内容をご審議いただきたいと計画をしておりますので、本当に皆様お忙しいことは承知をしておりますけれども、ご理解くださいますよう、そしてご協力をいただけますようお願い申し上げます。

本日は、「第8期の計画の現状と振り返り」ということでご説明をさせていただいて、第9期の計



知るに当たって、どういうルートで知ることができたからご利用になったのかという点ですね。

それから介護、広域連合と合同で「介護のしごと相談会」をされたということでした。これ実績として介護施設のほう、あるいは介護保険事業所のほうの人員が就業にどのような形で結び付いたのか、その実績はどうだったのかということをお教えいただきたいと思います。

もう1点あります。41番の、「特に人材不足が顕著であることを再認識しました」と書かれております。この圏域における人材の過不足、どれくらい介護職員が不足しているのか。実数としてどれくらい不足して、供給をしなければいけない数があるかという数を教えていただきたいと思います。

それと課題及び方向性の中で、40番の、「広域連合と合同で引き続き介護人材の確保につながる機会を計画します」とありますが、これ実際どのような手段で介護人材のほうの確保につながるようなことを活動されているのかということをお教えいただきたいと思います。

事務局：40番の初任者研修の件でありますけれども、初任者研修を受講している人数、申し訳ありません、こちらで把握しておりません。ただ、3年度よりは4年度のほうが増えました。それは随時、事業者連絡会や市のホームページ、その他で広報いたしておりますので、それを引き続き拡充していく予定であります。

次の「介護のしごと相談会」の内容であります。これは今年の6月10日に開催しまして、26団体が参加し、29名の参加がありました。実際にまだ確実の就労に結びついたという件数は少ないと思いますけれども、介護資格を持たない方や、その他の興味のある方に介護の仕事に就くきっかけを与えたものとして考えております。この広域連合と引き続きの介護人材につながる機会は、今年の12月頃にもう一度この「介護のしごと相談会」を開催する予定であります。

あと、41番のアンケートの関係でありますけれども、回答率がまだ半分くらいでありますけど、今、随時また催促してアンケートの結果を求めておるところです。まだ具体的にこの圏域に何人介護人材が足りないという実数は、ちょっとまだ出てない段階であります。以上です。

委員：この実数って大事ななと思ひまして、どこでも人材確保にかなり苦勞をしているのが現状かと思ひますので、ぜひともここは行政主体という形で実数を把握していただいて、どういった手段で人材を供給できるのかという手立て、それを検討していただきたいと思ひます。

あと、先ほどの26団体で29名が参加されたというこの「介護のしごと相談会」、その後、追跡していただいて、こういう形でご努力をいただいているわけですので、どういう形で就労に結びつくかっていうことですね。やはりもし求めているものがあって、そのマッチングの問題だとすれば、どういう形で事業所を紹介してくるのが適切かというようなことを追跡していただいて、ぜひともこの圏域で介護人材確保ということにつなげていただきたいと思ひます。もう一つご質問させていただいてよろしいですか。

資料ナンバー1-5のこれは「介護保険事業量の現状等」ということで、データをいただいております。この中で1番、1ページ上のところの表で、要介護認定者のサービス量の令和4年度の太線の中、認定者総数が減ってきていて、そしてあと認定、新規の下の図、出現率も減ってきているということなので、認定者全体の、要は要介護者自体が減ってきている。ちょっと意外だったんですが、こういうふうになってきている。こういうふうになってきているというのは現状なんだなと思ひました。

続いて2ページ目の真ん中の2番のイのところですね。入所者のところですけども、入所者が減ってきているということで、要は全体の介護保険の認定者数が減ってきて要介護者が減ってきているから、施設利用者の3年実績が1,285人だったのが4年実績が1,199人になっていますので、入所傾向の方たちが減ってきているということなので、全体の数が減っているから入所が減っているというふうに理解して良いのか。それとも在宅、通所系であるとか、在宅で支えられる方が増えているから、この数になっているのかということ。

もし、全体の数が減ってきているのであれば、施設は空きが出てきているのかなというふうにも読み取れるんですけど、理解、解釈が間違っているといけないので、教えていただけますでしょうか。

事務局：一部推測の域を出ない部分もございますけれども、まず1ページの認定率が下がっていている部分ですけども、これにつきましては飯田市では総合事業のスタートから3年目、令和2年になりますか、そのときからですけども、要支援の方の総合事業の従前相当の部分を当時は要支援認定を取らないと使えなかったというものを、これにつきましては全国の市町村、実は様々、市町村ごと決められることができるんですけども、国の大勢的なところでは要支援の認定を取らなくても事業対象者として、その程度の要支援レベルの方についての訪問型サービスですとか、通所型サービスを使えるところのほうが多いものですから、飯田市のほうでも令和2年からの舵を切り替えまして、そのような動きをさせていただいておりまして、要支援の方の更新のたびに更新認定をせずに事業対象者として使える方が一定程度増えたものがございます。

また、一概には言えませんが、介護予防の効果につきましても、飯田市が取り組んでおります効果が一定程度現れたもの。それが複合しまして、総合的にこのような数字になってきておるといふふうに思っております。

実は当時、令和元年当時で言いますと、長野県内の19市では2番目ぐらい飯田市は認定率が高い市だったところですけども、そのような取組、いくつかの取組ですとか方式を変えたことによりまして徐々に下がっておりますので、そういったそれぞれの効果かなと推測をしております。

それから2ページの2番、施設の利用人員の見込みに対して結果が下がっているという部分です。これについては一概には言えない部分があるんですけども、基本的に施設なものですから空きというものは待機者がいる以上、ないというのが本来ですけども、なかなかコロナということもあり、空いたところにすぐ入らないという現状がありまして、またその一部の施設におかれましては、クラスターも発生するなどあったときに、新規の利用者を即入れられないという現状が一定の期間どこの施設もあったように聞いております。特定の施設につきましては、私もいくつかを聞いておるんですけども、そうやってまいりますと待機者はいるんですけども、空けたくて空いておくわけではございませんが、すぐに入れないというところが、この月当たりの利用人数の減少に跳ね返ってくるものかなというふうに推測をしております。

このような回答しかできませんけれども、よろしく願います。

委員：ありがとうございました。

入所状況を見ますと、そうすると今年度における、特例的な減少という解釈をしてよろしい

ということですかね。

事務局：はい、令和4年度につきましては、今年度におけます特例的な減少ですけれども、実は5類になりました以降も本年度につきましても、実はいくつかの特養さんですとか老健さんからクラスターという状況の報告がいくつもありますものですから、この5年度につきましても、まだすぐさま回復されるかというのは現時点では不透明と考えております。

委員：ありがとうございました。

そうするとやっぱりクラスター発生の初期のいわゆる初期の進行と言いましょか、早い段階でやっぱり沈静化をさせないと、利用人数はあるけれど、それにまだ応えられないという現状があるという解釈でよろしいですかね。ありがとうございます。

あと、やっぱり全体でそういうような介護保険への新規の利用率と言いましょか、出現率が落ちているということは、おっしゃるとおり、かなり介護予防というところでもこの圏域は実績を上げているということだと思いますので、大切さも非常によく分かりました。ありがとうございました。

事務局：追加ですみません、先ほど介護人材の関係でご質問いただいたところであります。

40番のポツの3つ目であります「介護人材の確保につながる機会を計画しました」ということでありまして、若干補足させていただきたいと思うんですけれども、なかなか有資格者を採用するのが大変であるというのが全国的な傾向でございますので、資格がなくても活躍できる場はないかなということで、今、介護助手というようなものに注目されております。でありますので、そういった介護助手もどういった仕事を実際にやっておるのかとか、こういった事業所で活躍されておるのかという、このような機会を、紹介する機会をつくりたいなというようなこと。それから、あとは人がいない分はICT化みたいなものもありますので、「先進のそういった機械がありますよ」というような、こんなような紹介もできたらいいのかなということ。

それからこの圏域でも外国人人材をたくさん使っている法人さんもありますので、そういった法人さんの参考となるような事例がないかなと。こんなようなことを紹介する機会をつくりたいなということでございますので、そんなこともご承知おきください。以上です。

委員：実際に私も職員が辞めちゃうと次の職員が入ってこないっていう状況が今ありまして、またヘルパーとか介護人材がだんだん高齢化しているっていう、そういう人材不足の中でありまして、こういう介護、人材確保という面で、また法人間のほうで外国人人材採用の紹介とかそういうのもぜひ聞いてみたいと思いますので、計画を立てていただければと思います。ありがとうございました。

委員：よろしいですか。人材確保という点からです。

人材確保という点で一言ですが、8-1番の「介護予防の意識醸成」ですね。ポイント制っていう「ポイントを与えています」というお話がありましたけれども、すごく良いアイデアだと思うんです。人材を確保するために。

私も今、障害者支援教室に行っています。障害者の方たちにポイントを与えますよっていったら、スタッフの人も出てきたときには印鑑を押してください。だからポイントをあげて「10回来てくれたらなんかお楽しみのもがありますよ」ということを言われて、私その気になって行っているんですけれども。

こういう一つの良いアイデアがありますので、私も今、そういう人材っていう問題も出てきましたけれども、そういう格好のアイデアを使って、こういう高齢で家ではブラブラしている人間をどんどんそういうところに参加させるような良いアイデアが、これポイント制っていうのはすごく、私は良いなと思いました。

だから支援教室にちょっと行って、ああいう教室に行って向こうから連絡いただいて「やっているから行ってくれんか」ということで行って、今は月に2回行くようにしています。本当にこれポイント制っていうのは今、人材のことが出てきたので、こういうアイデアを出していただければ良いと思います。以上です。

委員：よろしくお願ひいたします。2点あります。資料1-6。まず分かりやすい資料を作ってくださいありがとうございました。

まず、1点お願いしたいのは、例えば65歳から69歳の実数を100とした中での支援・介護認定者の割合とか、70歳から74歳の実数を100とした中での介護者の出現率などを出していただけると、より介護予防がうまくいっているかどうかという把握ができやすいのではないかと思います。また、どの年代に重点的に介入したら良いかということも考える一つの資料となるかと思ひますので、その辺もよろしくお願ひいたします。

2点目は資料1-3の8番、「介護予防の意識醸成」ですが、この中の方向性の中で、「将来的にはデジタル化というのを目指していく」ということでは書いてありますが、例えば長野大学で今インターバル速歩というのを研究されてきておるのですが、そこで教授たちが携帯にアプリを入れて、どのくらい歩いてどのくらいでというアプリとかがあるわけですね。そんなのもうまく活用できれば、1からつくるのではなくてあるものを活用できたらより意識向上につながるのではないかと思います。以上です。

事務局：ありがとうございます。グラフにつきましては、また今お聞きしたような意見を参考にしたものをお出しできればなと思ひております。

それからポイントのデジタル化でありますけれども、これは飯田市全庁的に取り組んでおる部分がございますので、今お聞きしたことも参考にしながら進めてまいりたいと思ひます。ありがとうございます。

委員：お世話様になります。この15番のところのモデル地区っていうのは、どういうふうにして選ばれるのかな、基準があるのか、私たち家族の会がサテライトで、そこへお話し合いの場をつくって出かけてみたんですけども、下久堅っていうところはなかなか人が集まりにくいところだったので、モデル地区をつくっていただひて良かったなと思ひますけれども、モデル地区をつくる基準というか、そういうものがありますか、教えてください。

事務局：ありがとうございます。ちょっと当時のこと詳しくなくて申し訳ないんですけども、下久堅というところはちょうど中山間というところで、足がなく集まりにくいっていうこともあるでしょうし、けれどもちょっと人のつながりがまだあって、そういった新しいことやりやすいっていうような、そういった地域性の中から選ばれたんじゃないかなというふうに思ひます。ただ、はっきりした基準があって、この下久堅地区を選んだかどうかっていうのはちょっと不勉強で今、お答えできないんですけども、地域性ですとか、公共交通がないだとか、いろんな課題もある中で選ばれたところだと思ひます。よろしいでしょうか。

委員：じゃあ今後ここモデル地区にしてほしいっていうところは、手を挙げて申し上げてよろしいのか、そちらに基準があるのか、どうでしょうか。

事務局：特にそういった、ここの地区はどうだっというような基準がございませんので、ご希望があればまた言っていただいて、一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

委員：一つよろしいでしょうか。17番の、総合事業についてのところがあるんですけども、今サービスA、これ多分第9期になってくると、サービスCぐらいのものを求められるのではないかなと思うんです。総合事業のCという形、PTさん、OTさん、それで今、歯科衛生士、栄養士っていう方が関わって今、行っているわけですけども、Aっていうのはそこまでは求められておりませんが、こういう多分ですけども、そこら辺までのものが求められてくるのではないのでしょうかと思います。国も多分、介護予防についてはかなり力を入れてくるはずですので、そうなったときにやはり受ける側としたらあの単価では泣けます。少しその見直しをお願いしたいなっていうのは、ぜひ検討していただければありがたいと思ひます。

そしてもう1つですけども、申し訳ございません。5ページ、88番のところですが、コロナのときには大変市にもいろいろとお世話様になりました。簡易検査キットだとか防護服など本当に素早く対応していただいてお礼を申し上げます。が、少し5類になったというところはあるのですが、自然災害について。先ほどちょっと事務局にもお願ひをしましたが、避難勧告が出ると私ども通所では帰さざるを得ないんです。自分たちの身も守らなきゃいけない以上にご利用者さんを守らなければいけないので、つてなると、7、8利用の方も5時間6時間、もしくは半日でお帰ししないと、安全確保という意味ではしなきゃならない。でも、そうなったときにその分減算になってしまうのですが、そこら辺はどうでしょうか。

減算しなくても良いという判断を出している居宅もあれば、そんなこと何も知らないという居宅もありますので、その辺をちゃんとしていただいて、事業者連絡会等で皆さんに周知していただかないと、その辺をお願いしたいと思ひます。以上です。

事務局：通所型サービスA事業についてのご質問ありがとうございます。

委員さんがおっしゃってくださったように、通所型サービスA事業については、もう少し介護予防にしっかり力を入れたような事業にしていきたいというような考えであります。

C事業は、集中的にやる事業をしまして、回復をして、卒業していただくというような形になっていますので、A事業もそれに近いような形を目指しているんですけども、おっしゃっていただいたように、単価が非常に安く設定されているっていうところも事業者様から聞いておりますので、それについてもまた内容ですとか単価ですとか、一緒に考えていけるような形で、今月末に研修会の中で情報提供・情報交換をしながら一緒に考えていく機会を設けていきたいと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局：2点目の質問についてですけども、先ほど会議が始まる前に委員さんからお話をいただいております。今回、6月2日の災害の関係で避難勧告等が出たことによりまして、早く帰った利用者さんの対応ということで、当時私どもも一部の事業所さんから問い合わせがあったものですから、一応そういう対応を回答したところですけども、確かに多くの事業者さんに周知をさせていただくことかなと考えておりますので、至急どのように統一的な取扱いをするか、それをまたどのように周知をさせていただくか、早急に対応をさせていただきたいと思ひます。

委員：今後、今回のように高齢者等の避難が出た場合については、そのデイサービスで早期にお帰りいただいたときについても同様の措置ということによろしいですか。

事務局：今、この場で即答ということはなかなか難しいものですから、災害の規模ですとか出るタイミング、それから例えば朝一で出てしまうと、夕方出るのかということによっても内容が変わってくるかと思しますので、その部分も含めまして検討させていただきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

委員：よろしく願いします。

委員：資料の1-3の6ページのところの4の「ケアプラン点検」ですけれども、「ケアプラン点検の実施により事業所のケアマネジャーのケアプランの作成プロセスや基準等に関する理解が深まり、資質の向上を図ることができたと認識します」って全くそのとおりでありがたいと思っておるのですが、その課題のところ「利用者の現状に合わない介護サービスが事業者から提供されていると判断できるケースがあります」、もしこんなことがあったというのが全体のケアマネジャーに周知されると気をつけて作成することができて、もう少しさらに質が向上していくのかなと感じました。以上お願いいたします。

事務局：ご意見ありがとうございます。

内容について、どこまで周知をできるか、場合によっては個別のサービスですとか利用者が推測できてしまう部分もあるかもしれませんので、そういったことが可能かどうかも含めまして、一旦検討させていただきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

委員：ありがとうございます。

## (2) 第9期介護保険事業計画策定について(資料No.2)

質疑応答なし

## (3) 全体の質疑

委員：意見というか今日、かなりいろいろたくさん資料をいただいて、全て目を通して出席したかったんですが、ちょっととてもたくさん過ぎてできなかったんですが、今日説明を加えていただいたので、より理解できてそれはありがとうございました。

それで総体的に1-3の資料ですけれど、かなり項目が細かい中で、多分バックにいろいろなデータがあるはずですけど、まとめられたものは「多かった」とか「増加した」とかそういう言葉で評価されているので、これから第9期の具体的な計画を立てるにあたっては、私どもは直接そういうものに携わっていない場合、なかなかその多い、少ないとかそういったものから具体的な計画に良い、悪いてコメント出しにくいと思うので、この先またいろいろところで検討する際は、そちらのほうで持っている数値的なデータについてお示しいただく機会があればまたそれを会議のときなどに提示してもらえればと思います。

感想ですけどお願いします。

事務局：ありがとうございます。

データの分量とかボリューム感があると思しますので、こちらで精査をしてお出しできるようなものにつきましては公開させていただくような形でお願いしたいと思います。

5 連絡事項

質疑応答なし

6 その他

質疑応答なし

7 閉会